

子どもの幸せを守る社会課題解決アプローチ ～AIスタートアップの挑戦～

2020年11月2日

株式会社A i C A N (アイキャン)

高岡、及川



アジェンダ

Agenda

本日、お話しすること

- はじめに
- Part1 AIベンチャーが考える「子どもの幸せを守る」とは？
- Part2 AiCANが目指す子どもの幸せの社会インフラとは？
- まとめ



Part1

AIベンチャーが考える
「子どもの幸せを守る」とは？



高岡 昂太



Ph.D (教育学)
臨床心理士・公認心理師・司法面接士

2011年 東京大学大学院 臨床心理学コース博士課程修了

2011-2013年 千葉大学 子どものこころの発達研究センター 特任助教

2013-2017年 ブリティッシュコロンビア大学 客員研究員

2017年-現在 産総研 人工知能研究センター 主任研究員

2020年3月-現在 株式会社AiCAN 設立 CTO就任

児童相談所や医療機関、司法機関での業務歴 約15年

株式会社AiCAN



AiCAN

すべての子どもたちが
安全な世界に変える

2027年までに見過ごされた子どもの虐待をゼロに



30年前と今の子どもの安全に関する違い

水を飲むこと



30年前

根性論から「水を飲むな」



現在

科学的な指摘から、「水を飲め」

30年前と今の子どもの安全に関する違い

組み体操



30年前

伝統から大きなピラミッドを作る



現在

科学的な指摘から、危険なので禁止

30年前と今の子どもの安全に関する違い

子どもを見守る環境



30年前

幼稚園・保育園に
全員入れる



現在

幼稚園・保育園に
全員は入れない

30年前と今の子どもの安全に関する違い

体罰と暴力



30年前
しつけで体罰あり



現在
体罰禁止条例

現在の30代から60代までの子育てと、今の子育ては違う

自分の世代でされたことを、
今の子どもにすると、間違えることがある

子どもを安全にする場合の課題

子ども時代は誰しも経る。

でも、親になり、
子どもの安全に関するスキルや知見は学校では習わない。

- × 「親になれば、自然と出来るだろ」
- 「誰もが上手く出来るわけではない。
上手く出来ないときもある」

不適切な養育の発生割合

諸外国のデータから

不適切養育の進行度	5人に1人	50人に1人	500人に1人	5000人に1人	50000人に1人
養育者の行動	叩く	強く叩く	突き倒す	暴行	過度の暴行
子どもの損傷	一過性	打撲・あざ	裂傷	頭部打撲・損傷	昏睡・死
必要な対応	保護者の支援		早期診断・支援	保護者・子どもへの介入と支援	

一方、日本の調査(2003)では、5人に3.5人は叩かれた経験あり

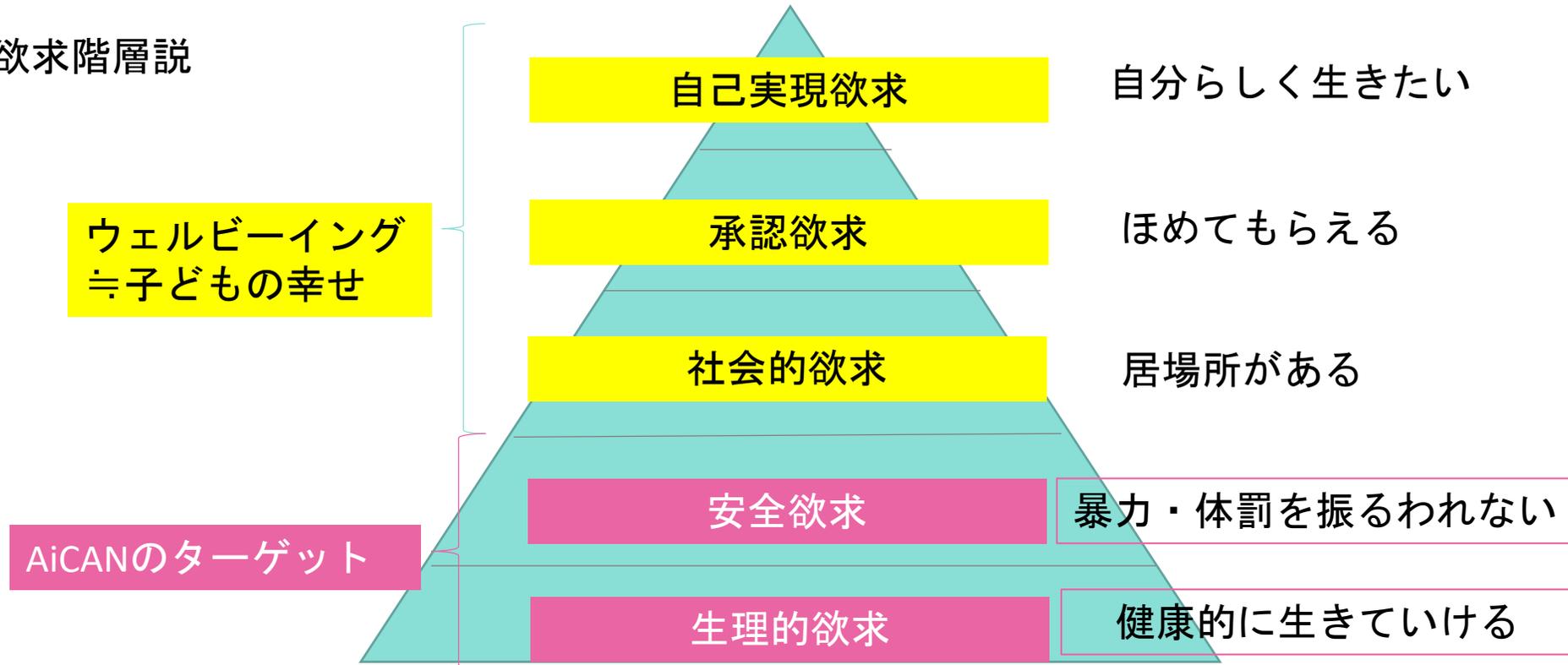
じゃあ、今困っている子ども達をどうする？

子どもは社会で育てるという点がグローバルスタンダード

そのために、どう「社会全体」をアップデートするか？

スマートシティにおけるウェルビーイング、その前に

マズローの欲求階層説



土台を堅固にしないと、ウェルビーイングにならない。

子ども達が健康かつ、安全・安心に生活でき、暴力・体罰を振るわれたい社会を作れたら、ウェルビーイング市場、ひいては国の豊かさを拡大できる！

子どもの安全に関する常識をアップデートするために

社会の中で、子どもの安全を守る一番専門性が高い機関？

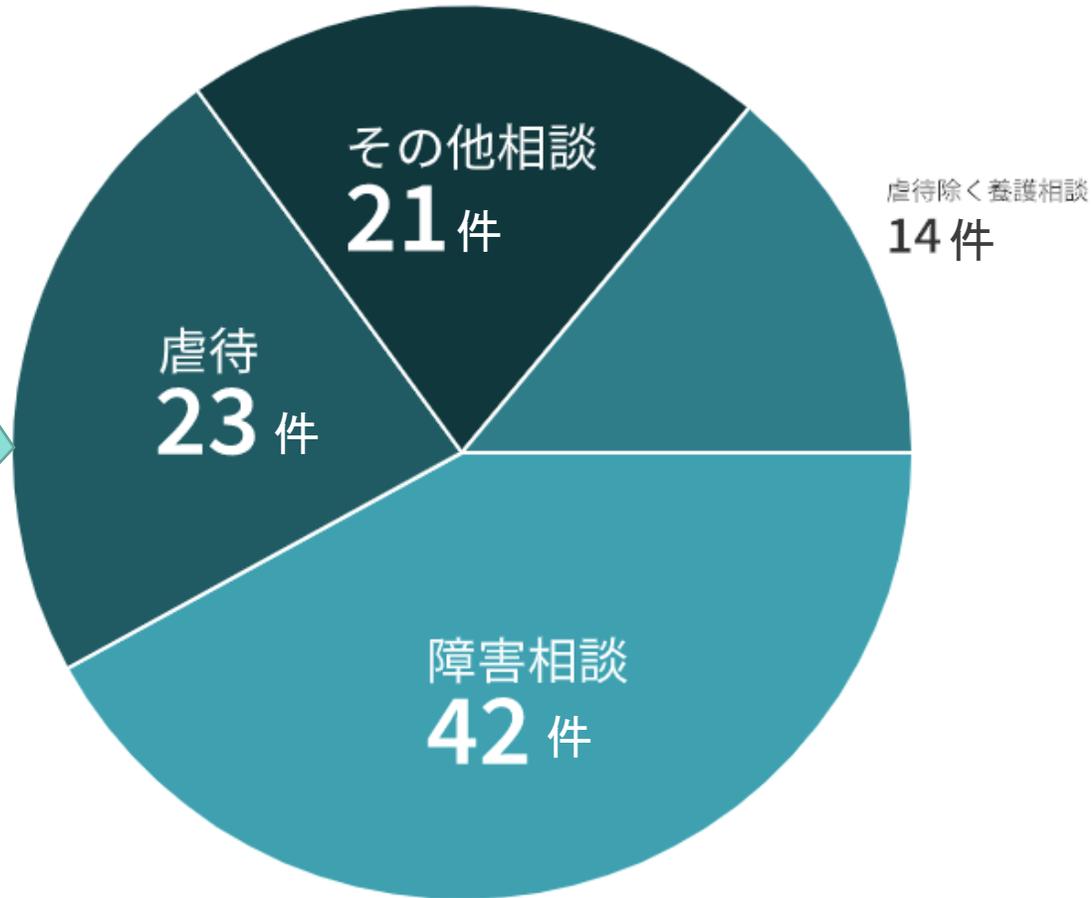
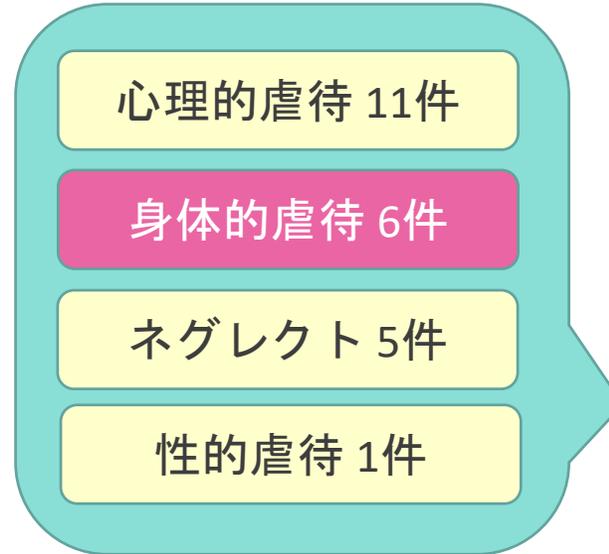
児童相談所。

でも、児童相談所って何してるの？

児童相談所って、虐待＝残虐な行為のみに対処する機関だと思われていませんか？

児童相談所の相談件数

100件あったら



身体的虐待として受理されるのは6件

その内、とても重篤なケースは1件以下

重篤化する前に、歯止めとして対応していることが児童相談所業務のメイン業務。

子どもの安全を守る児童相談所のホントのところ

ダメな親が増えているわけではない

ただ、ニュースになるのは超重篤ケースのみで、全てのケースが重篤のように見えてしまっている。

社会の中で、一番専門性が高い機関が児童相談所ですが、犯罪を取り締まる組織ではなく、重篤化させず再発させないために、介入と支援する機関。

子どもの幸せを守るという点において、
児童相談所は一番子どもの安全リスクが高いところを守っています。

子どもの安全を守るのは誰か？

現場のコンセンサス

「子どもの虐待」 = 「子どもの安全問題」



それを守るのは保護者。

保護者が子どもの安全を守れない時は、**社会と保護者**が安全を守る。

子どもの安全を疑うこと＝後ろめたい、裏切り行為？



違います。

子どもの安全を疑うことは、家庭のニーズを見つけるための必要なスキルです。

疑わないと見つけられません。

通告＝社会的な告げ口？加害者の告発？



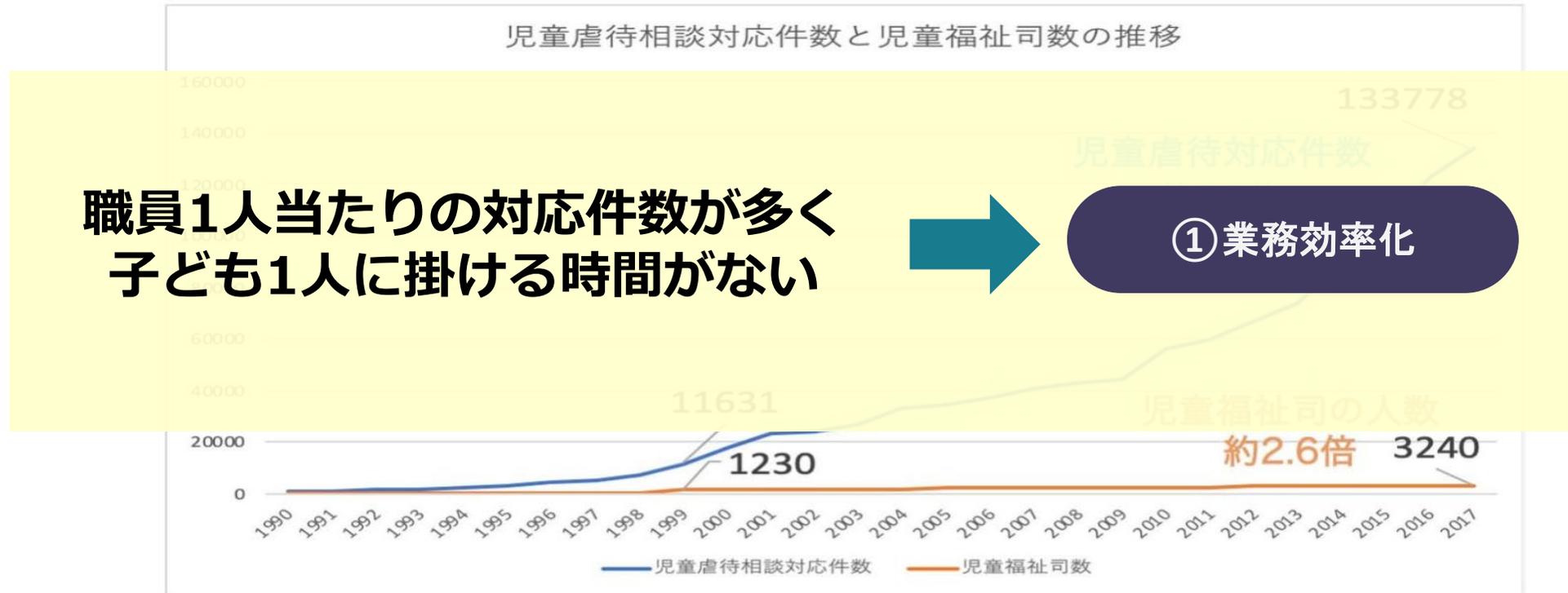
違います。

通告は、家庭内だけで何とかしようとしても
上手く解決できない子どもの安全問題を

地域に開き、支援を開始するための“支援行為”です。

**Q:子どもを虐待から守るには
何が課題か？**

課題 1 : 対応する職員の不足



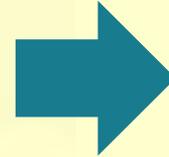
厚生労働省 (2018) 平成29年度 児童相談所での児童虐待対応件数<速報値>

厚生労働省 (2016) 児童福祉司について

厚生労働省 (2018) 市町村・都道府県における子ども家庭相談支援体制の整備に関する取組状況について

課題2：虐待か否かの判断が困難

その場の情報で判断しようにも、
正確な事実が分からない



②判断のサポート

①業務効率化



②判断のサポート

を実現するのが



Assitant of Intelligence for Child Abuse and Neglect

児童相談所が重要な役割をされていて、そこで判断を誤ると事件になる。
その判断補助にAIを入れていきたい。

リアルタイム情報共有で業務スピードが向上



いつでも・どこでも・安全に情報閲覧&入力。
他機関とも情報共有可能



グループチャット機能で
コミュニケーション補完

AIに基づくリスク管理を可能に

1 4歳、男の子の山田太郎君 身体的虐待

2 現状の重篤度は99% かなり危険

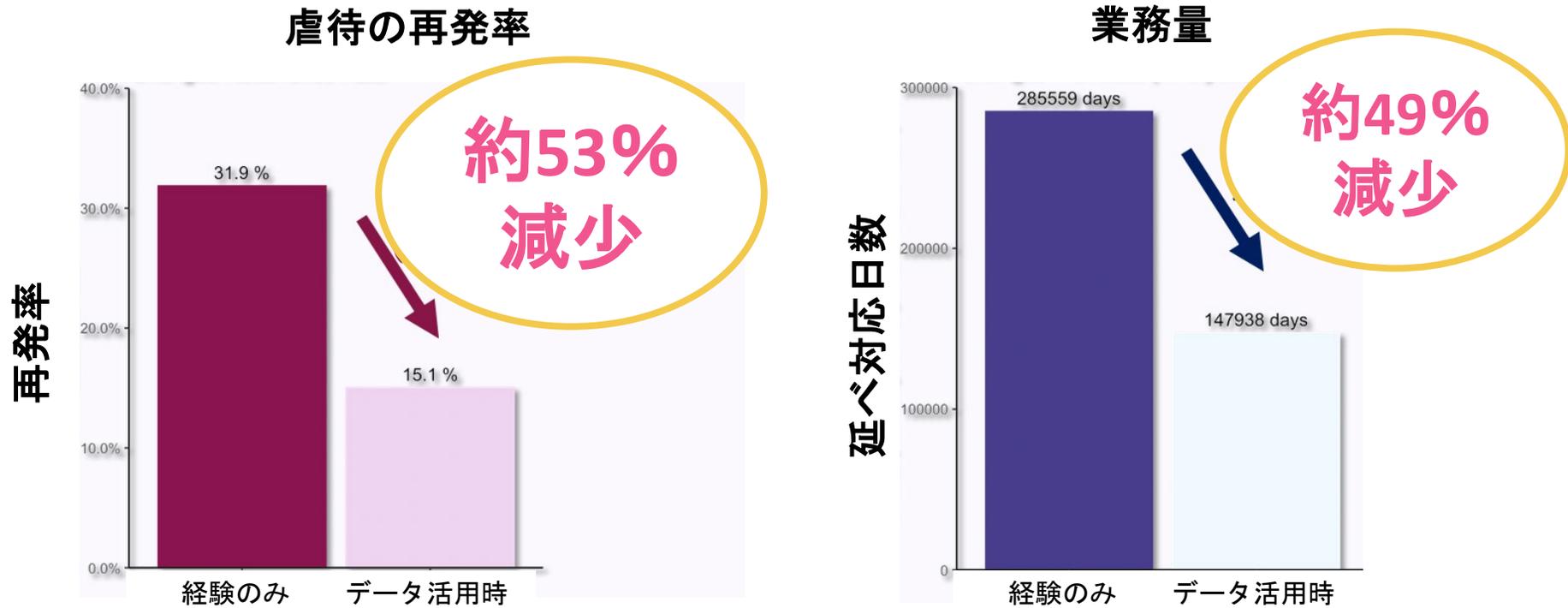
3 一時保護後、調査すると再発率は5%。対応日数は180日

1 子どもの情報を入力

2 過去の対応記録に基づきAIがシミュレーション

3 現場判断を支援する情報が提示され、再発を防止

虐待の再発率及び児童相談所職員の業務量を半減



(Sakamoto, Takaoka, et al. 2019)

AiCANを展開出来ると

業務効率化だけでなく、関係機関全体の判断の質の向上や、知見の活用に貢献



傷アザ写真含む記録の
作成・共有・決済が容易



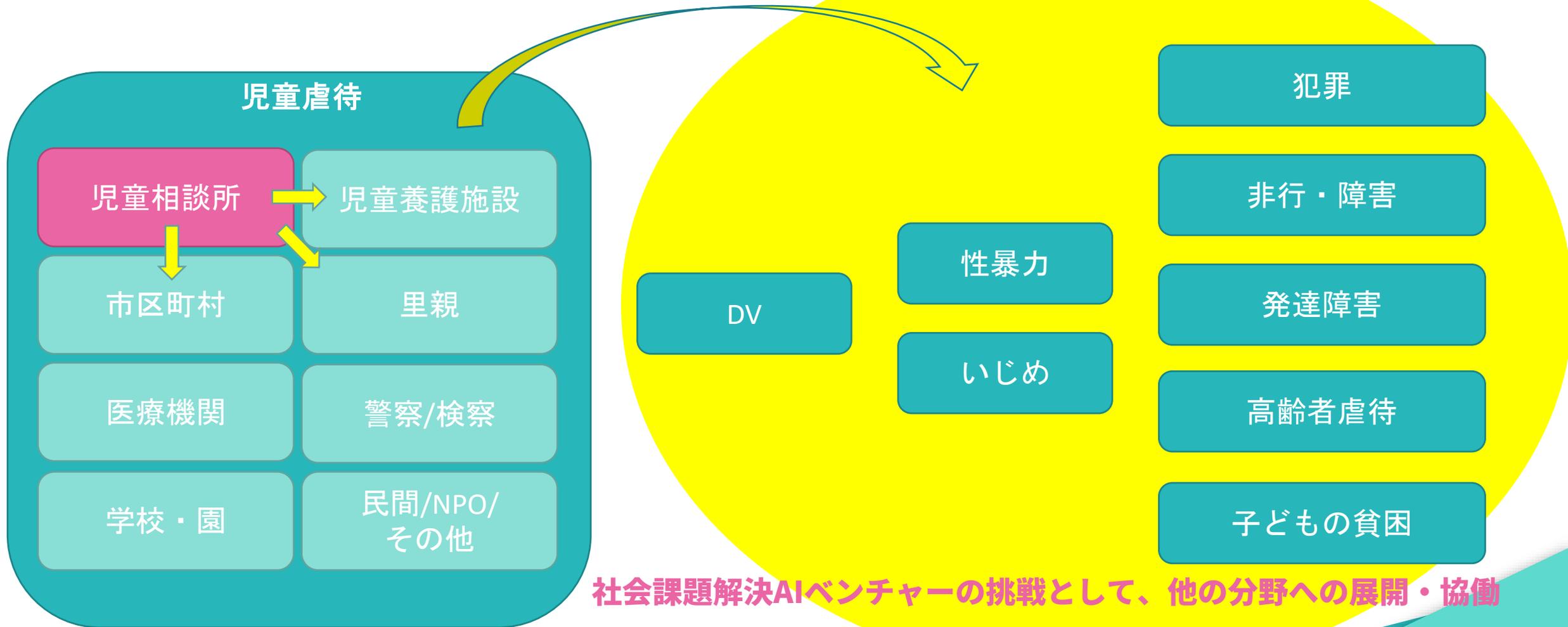
他部署、保育所等との
リアルタイム共有



データを利用して
対応や政策を判断

実現したいこと

幅広い児童福祉の世界に、
AIを使って客観的な支援ツールを使い、より子どもの幸せを作っていく



社会課題解決AIベンチャーの挑戦として、他の分野への展開・協働

Part2

AiCANが目指す 子どもの幸せの**社会インフラ**とは？



「子ども虐待」の意味の変化

どの家庭でも子ども虐待は起こりうる

以前

大人による子どもに対する残虐な行為
cruelty

現在

「子ども虐待」の意味の変化

どの家庭でも子ども虐待は起こりうる

以前

大人による子どもに対する残虐な行為
cruelty

現在

親の権限の濫用
abuse

親による不適切な子どもの養育
maltreatment

「子ども虐待」の意味の変化

どの家庭でも子ども虐待は起こりうる

以前

大人による子どもに対する残虐な行為
cruelty

現在

親の権限の濫用
abuse

子育ての
常識は変化

<完璧な親>
はいない

親による不適切な子どもの養育
maltreatment

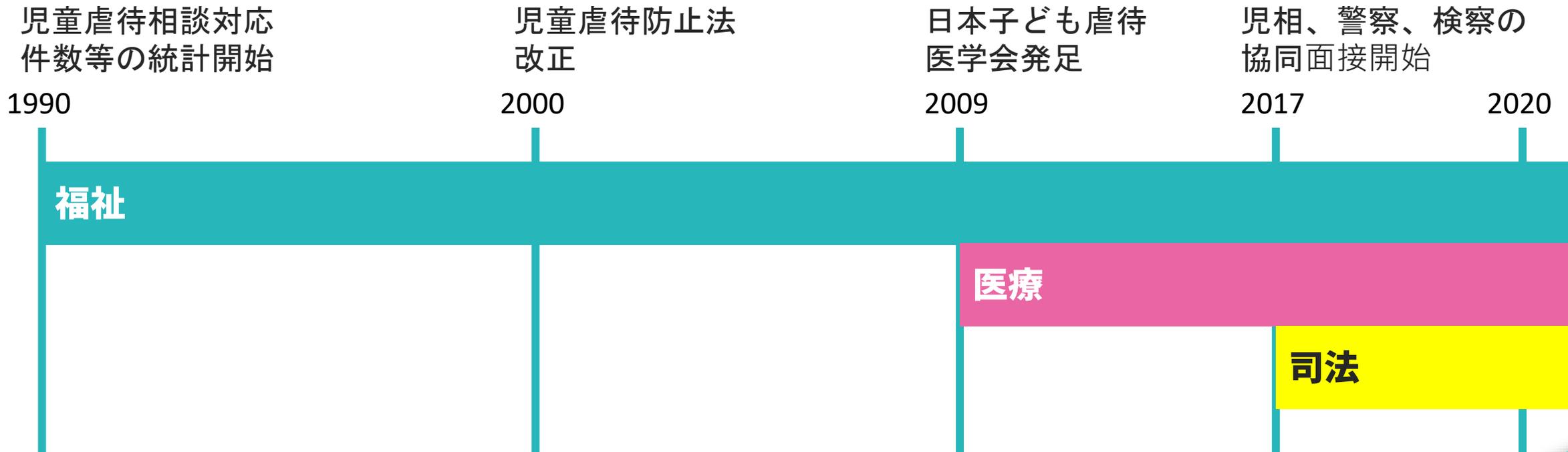
子育てへの社会の支援が必要

子ども虐待は、福祉 と 医療 と 司法が連携して対応する問題である

児童相談所だけの対応ではなく、医療や司法との連携が必要となる

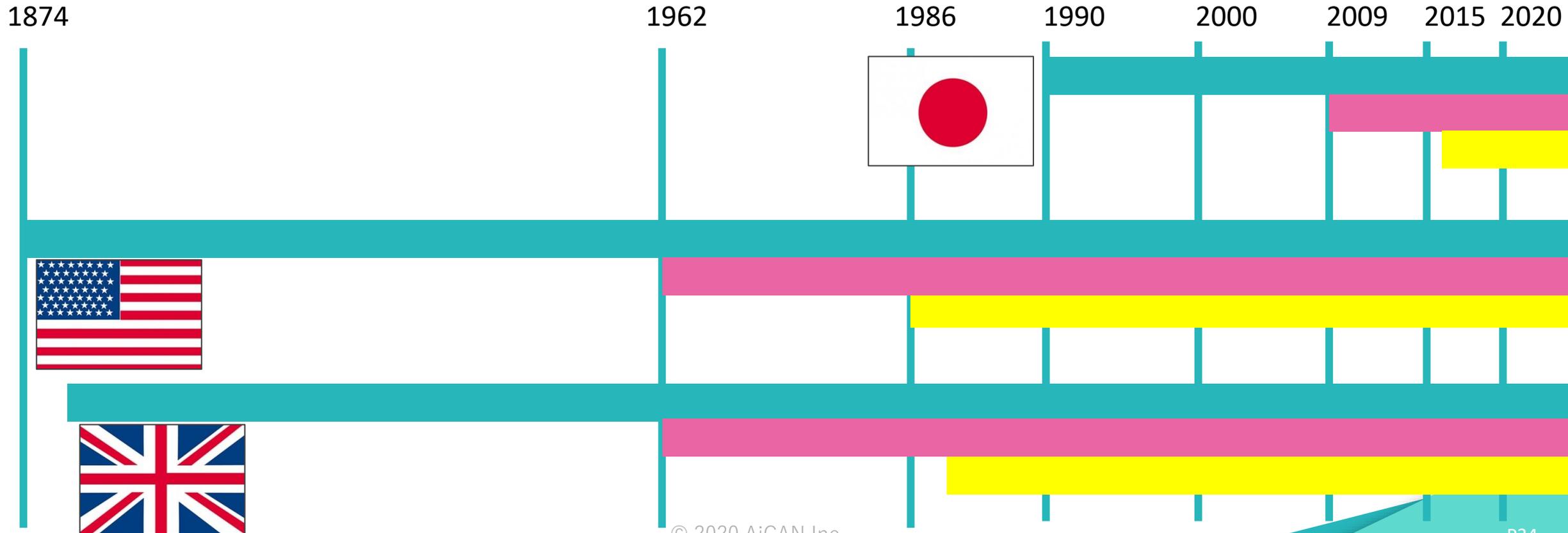
医療連携：医学的診察など専門的な知見・スキルが必要となる場合

司法連携：被害確認面接や加害者逮捕を検討すべき問題への対応が必要となる場合



子ども虐待は日本では比較的新しい社会課題

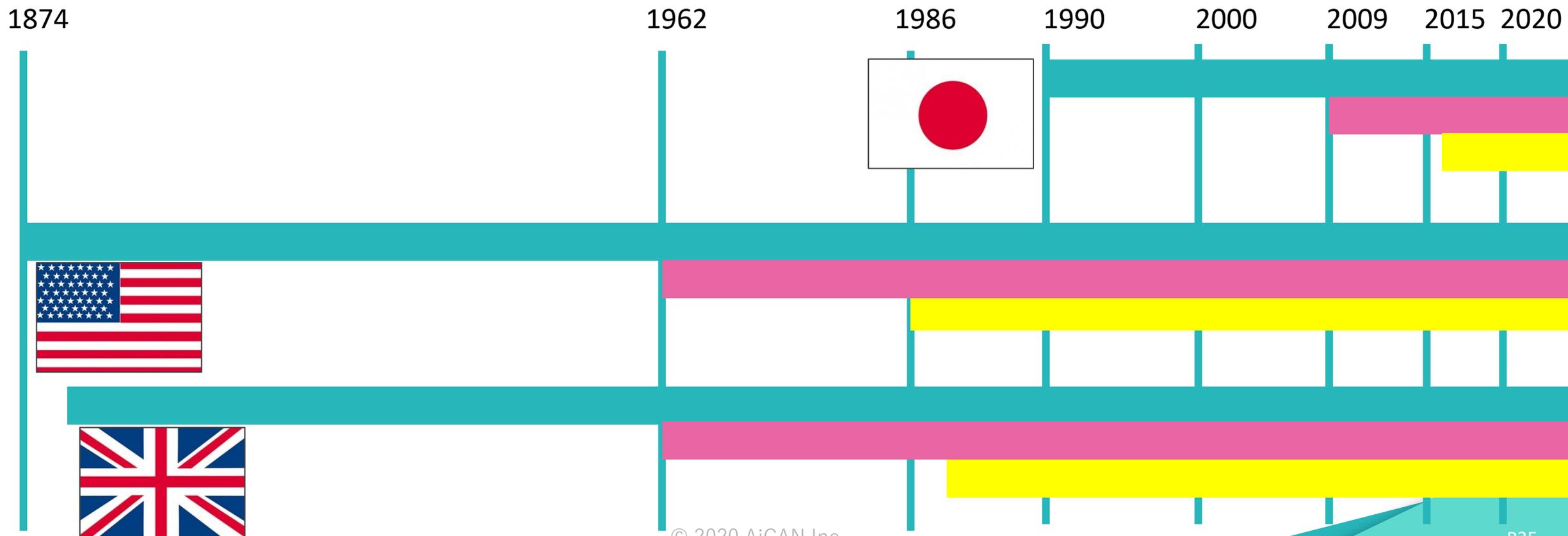
米国、英国では、1800年代後半から社会課題として認知されている



子ども虐待は日本では比較的新しい社会課題

米国、英国では、1800年代後半から社会課題として認知されている

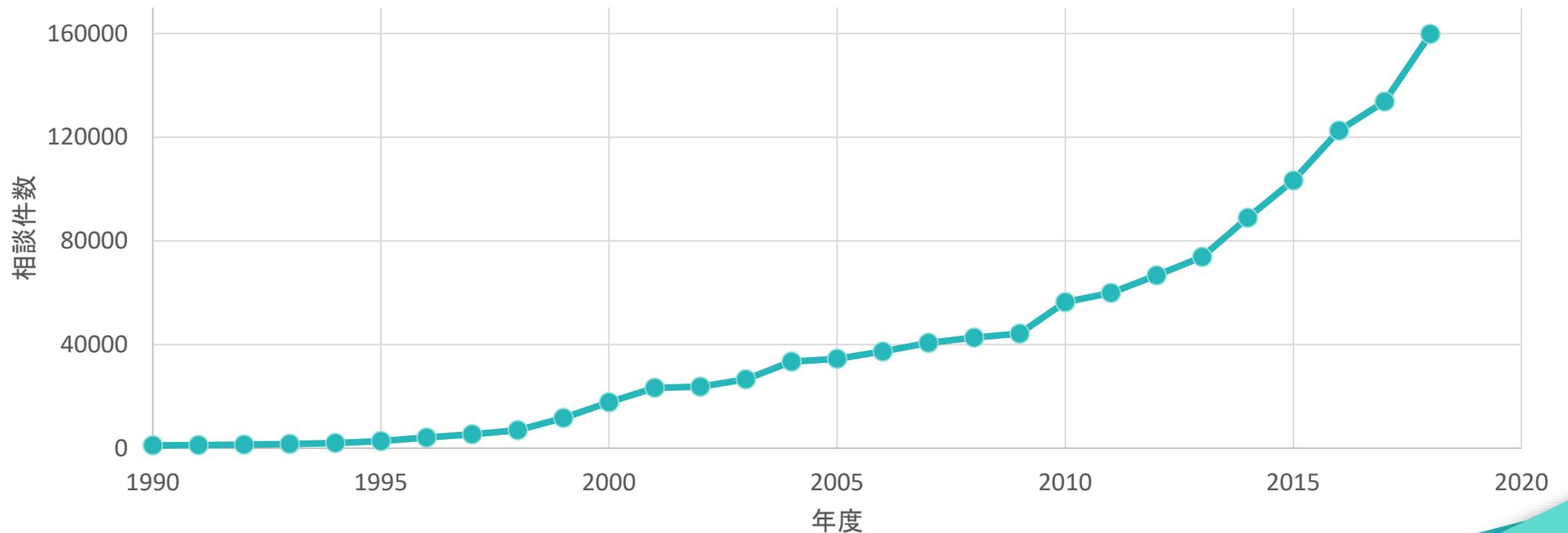
1990年以前は、米国、英国と違って日本には児童虐待はほとんどないと考えていた



児童虐待相談対応件数は、なぜ毎年増え続けるのか？

1990年の統計開始から相談対応件数は毎年増え続けている

児童虐待相談対応件数の推移

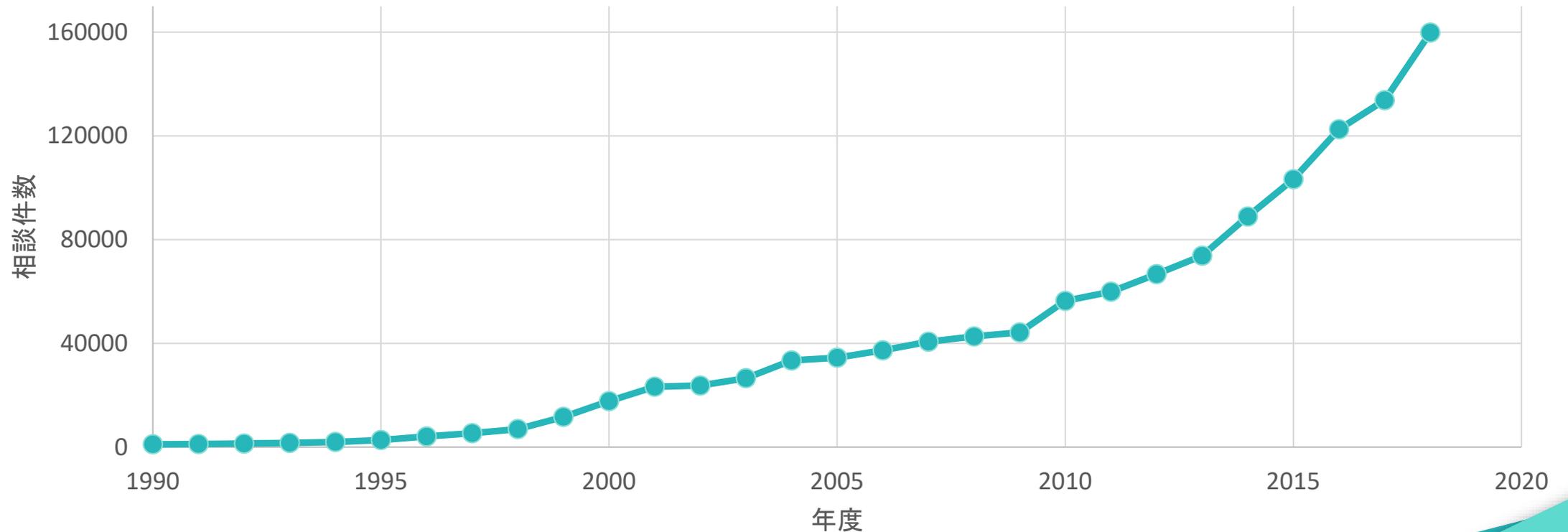


児童虐待相談対応件数は、なぜ毎年増え続けるのか？

1990年の統計開始から相談対応件数は毎年増え続けている

子ども虐待への社会的な認知が進んできた。しかし、されるべき相談は、出尽くしたのか？

児童虐待相談対応件数の推移



児童虐待相談対応は、児童相談所だけに閉じた業務ではない

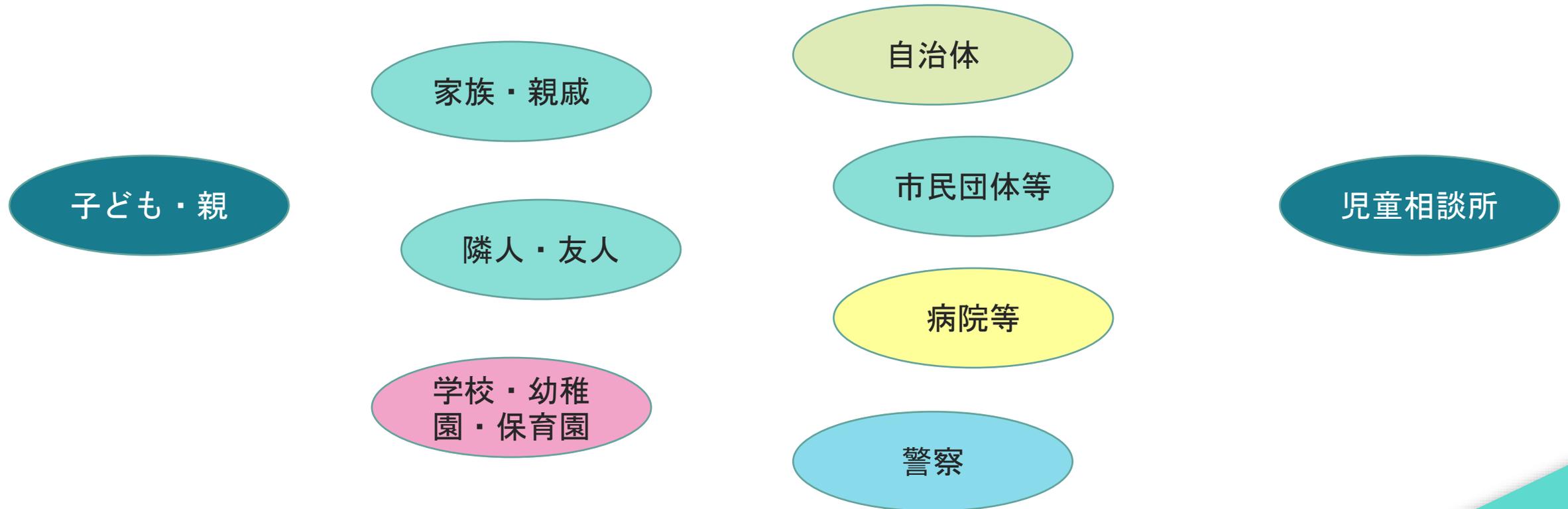
子ども・親と児童相談所だけが存在する相談対応ではない



児童虐待相談対応は、児童相談所だけに閉じた業務ではない

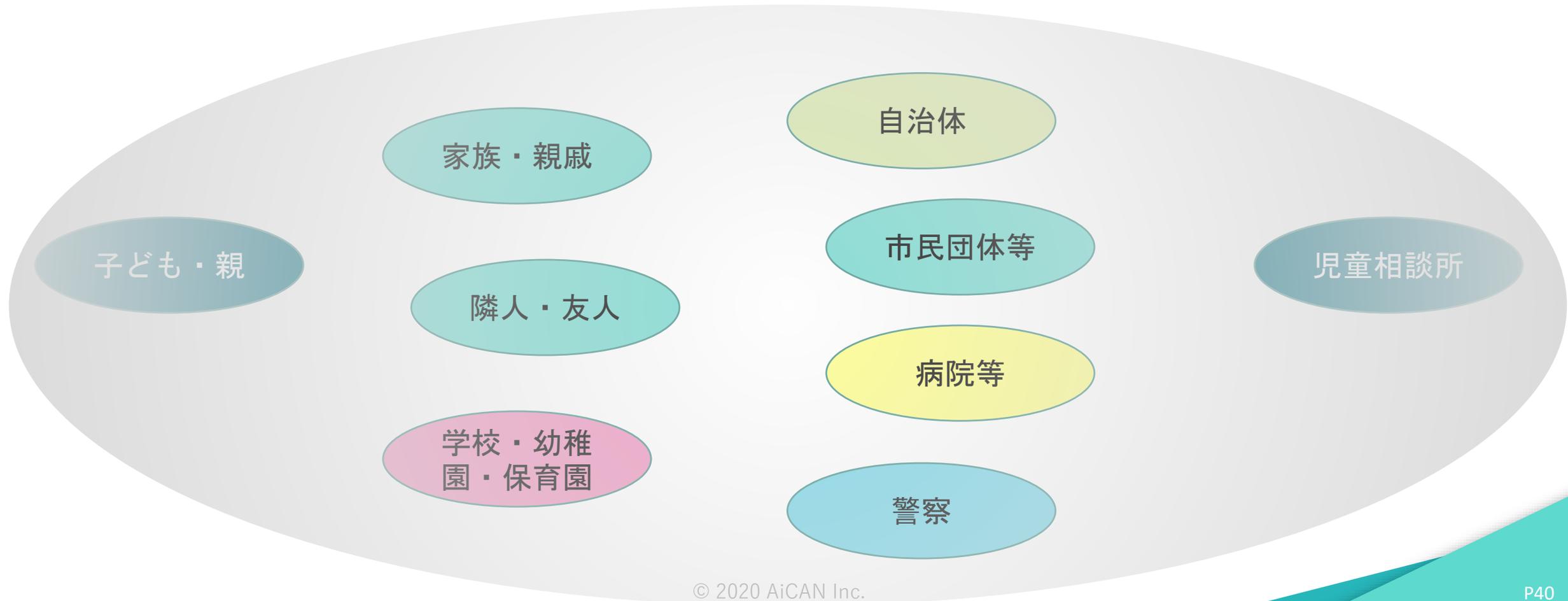
様々な関係者・関係機関が関与し、ネットワークを作って対応している

より専門的な知見が必要とされる案件は、関係機関から児童相談所に通告される



児童虐待相談対応は、子どもの安全を守るネットワーク構造である

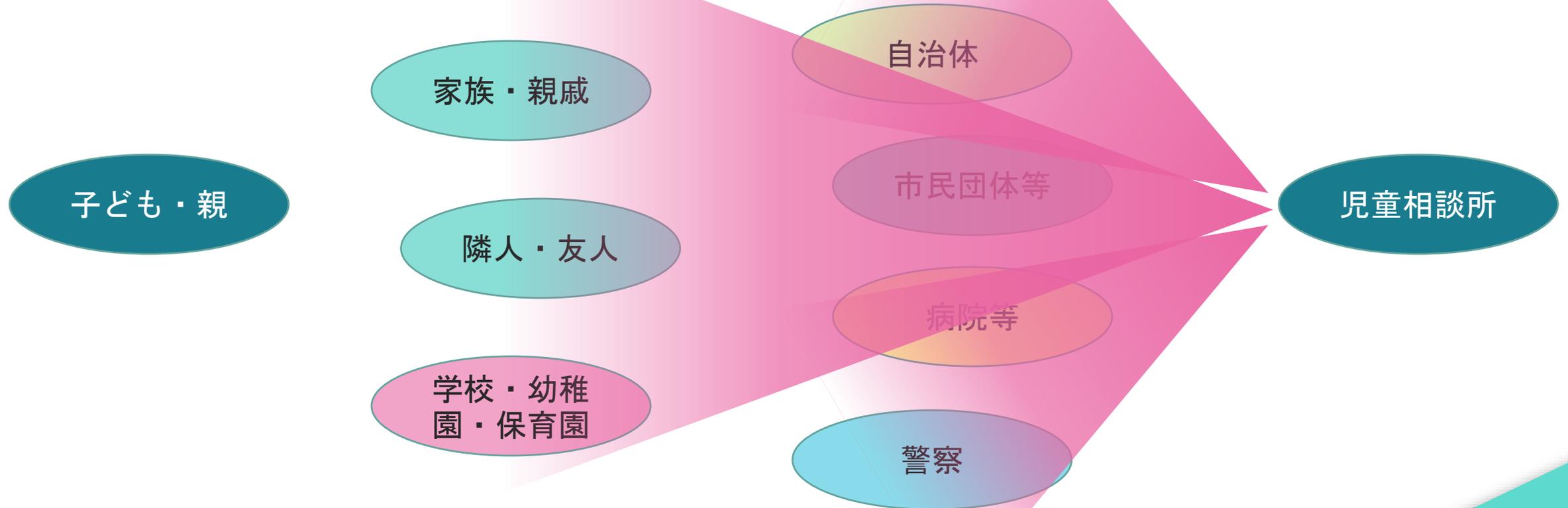
重篤事故の撲滅のためには、児童相談所が対処すべき重要な事案が漏れてしまってはならない



児童虐待相談対応は、子どもの安全を守るネットワーク構造である

重篤事故の撲滅のためには、児童相談所が対処すべき重要な事案が漏れてしまってはならない

しかし、すべてが児童相談所に集中すると、児童相談所の職員の負担が大きくなりすぎる

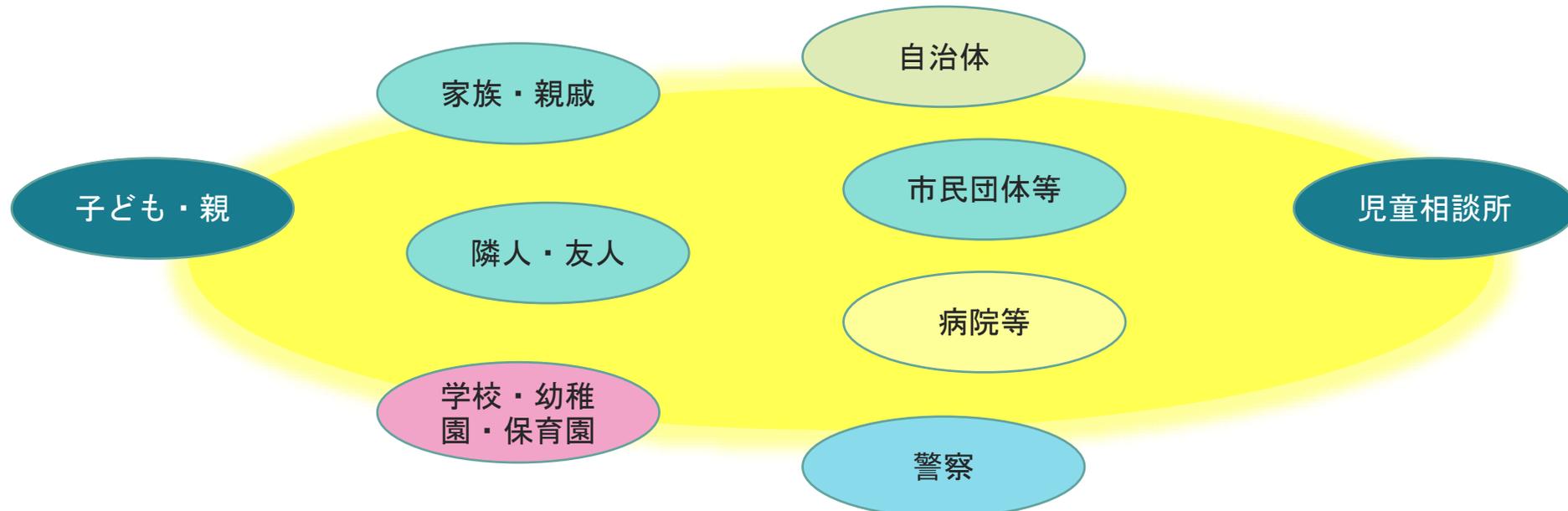


児童虐待相談対応は、子どもの安全を守るネットワーク構造である

重篤事故の撲滅のためには、児童相談所が対処すべき重要な事案が漏れてしまってはならない

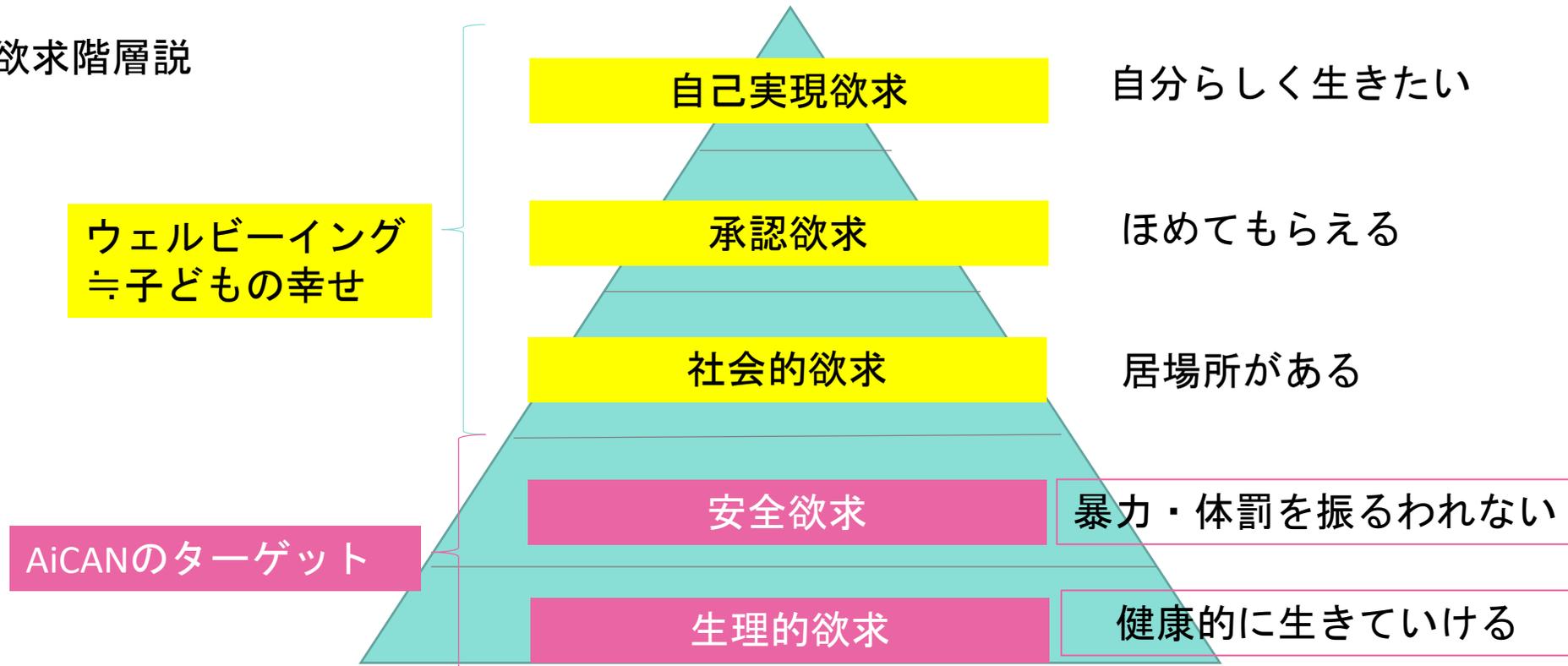
しかし、すべてが児童相談所に集中すると、児童相談所の職員の負担が大きくなりすぎる

ネットをよりワークさせるために、人の判断をAIが支援する



土台の安全が満たされないと、ウェルビーイングは実現できない

マズローの欲求階層説



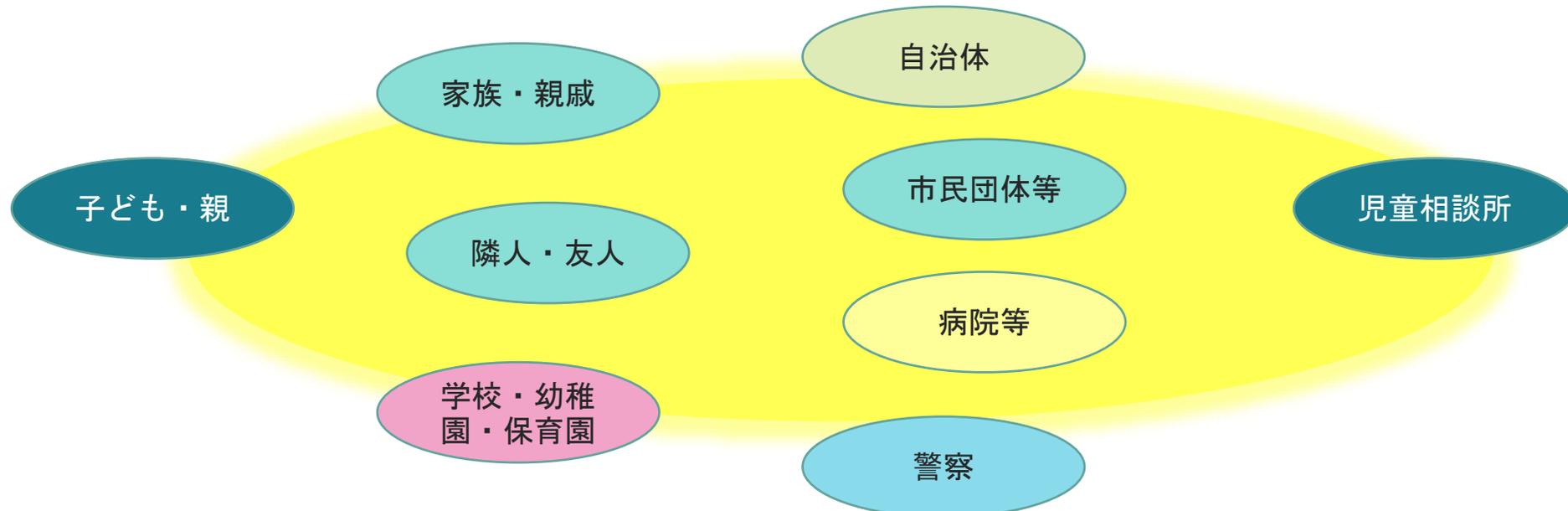
土台を堅固にしないと、ウェルビーイングにならない。

子ども達が健康かつ、安全・安心に生活でき、暴力・体罰を振るわれたい社会を作れたら、ウェルビーイング市場、ひいては国の豊かさを拡大できる！

ネットをより良くワークさせるためには

児童相談所だけのアプリケーションではなく、多様な関係者・機関のネットワークを支える
情報を適時共有し、AIが判断を助ける仕組みが当たり前になる仕組みが必要

子どもの安全が、社会インフラに組み込まれる未来へ



本日、お伝えしたかったこと

子どもの幸せを守るために、

- **子どもの安全の常識のアップデート**に貢献していきたい
- 多様な関係者が連携し、適切な判断を支える仕組みを、
社会インフラに組み込みたい

その未来に向けてAiCANは挑戦しつづけます

子どもの幸せを守る社会課題解決アプローチ ～AIスタートアップの挑戦～

2020年11月2日

株式会社A i C A N (アイキャン)

高岡、及川

